

乗り物の発展と歴史

明治から昭和にかけて、乗り物はさまざまな形で変化を遂げてきました。人々を運び便利な世の中へ。町が発展してきた原動力となっていたのかかもしれません。



3-002

列車



現在の花形は新快速。
山科-大阪間、約35分。
(平成17年、御陵大谷町)



新幹線のぞみ700系

最高時速285kmにも達し、東京-大阪間を約2時間半で結ぶ列車のスピード王。山科の中央を横断しています。(平成17年、大塚丹田)



16-001

新幹線の高架工事

山科盆地北西の山々が見えています。花畑にいくつも突き出ている鉄骨は新幹線高架の支柱。(昭和35年頃、東野中井ノ上町)

東海道本線を煙を吐いて走る蒸気機関車

この頃は蒸気の動力で力強く走るSLが東海道本線を走っていました。煙を吐いて汽笛とともに過ぎ去る様はとて格好よく、人気がありました。上の写真は東山トンネルを出て雪景色の中を山科駅へと向かう大カーブを見事に捉えたショット。トンネルの中ではススで煙を吐いていたそうです。(昭和30年、御陵久保町)



39-002

三條通、手前が山科で向こうは京都方面です。電線は路上へ向かうところ。車道はまだ3車線で、時差で車線変更になる仕組みでした。(昭和50年頃、厨子奥花鳥町)

バス

市バス登場

山科にも市バスが開通しました。手前は作物を運びリヤカー。(昭和30年頃、小野菊鹿町)



6-004

京阪バス山科停留所

醍醐・六地蔵方面への発着所として京阪電車の線路横にありました。(昭和30年頃、安永枝敷町)



19-011

木炭バス

当時はガソリン不足で、木炭を燃料に走っていました。後ろには、木炭を燃やす装置が付いています。木炭の煙で、発車オーライ！(戦中戦後、場所不明)



1-046

のどかな交通事情

人力・牛馬力



2-054

東海道(旧三條通)の五條別道橋から西を見えています。自転車には職人さん、リヤカーは野菜売りのおばさんと、移動はもっぱら人力でした。自転車の後ろには三輪自動車(ミゼット?)が見えます。(昭和33年、御陵中内町)



1-001

京津国道(三條通)を南側の建物2階から見下ろした様子。行商のリヤカーが点在しています。(昭和25年頃、竹鼻竹ノ街道町)



11-002

京都薬科大学の前にて。肥料を運ぶ牛車ガのんびりと行き過ぎます。(昭和18年頃、御陵中内町)



19-022

5頭ほどの馬で運送業を営む山田さんの素晴らしい馬姿です。旧三條通の家に馬小屋があったそうです。(昭和初期、四ノ宮大將軍町)

自動車

くるま時代の到来



31-005

安永消防分団の皆さんが、消防車で記念撮影。荷台に伸び縮みするハシゴらしきものが見えます。(昭和30年頃、安永馬場ノ西町)



1-049

神社のお祭(昭和43年、竹鼻竹ノ街道町)



31-003

タクシー(昭和41年頃、安永南屋敷町)



30-001

小さいですが、灯籠の右にサイドカーが写っています。側車と呼んでいました。右付きと左付きの両方がありました。(昭和11年頃、將軍塚)

今も健在!

オート三輪

(平成17年) 昭和30年頃が全盛期、エンジンの音から「バタバタ」と呼んでいました。当時はバイクのようなハンドルに前照灯が1灯付いていました。写真は山科川沿い難宮橋のたもと、池本鉄造さんのお仕事用で現役です!



東海道飛脚 ゆかりの井桁配達業こぼれ話

昔は飛脚という荷運び等専門の人たちがいました。四ノ宮地蔵前が、休憩の場所だったようです。運送会社の社章にも使われている刻字がこの井戸に。(平成17年)



(平成17年)

郵便で活躍した自転車とバイク

トレードカフの真っ赤な自転車とバイク。現在の山科郵便局の地下車庫です。今では見かけなくなりましたが、年賀状配達ときには大活躍するそうです。(平成17年)



(平成17年)